

TOPICS

●第11回セーフティジャパンインストラクター競技大会

世界トップクラスのインストラクターが安全運転の指導力、技術力を競う



今大会は海外8カ国23名の選手を含む、総勢113名が参加した

9月13日(木)～15日(土)の3日間、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて、「第11回セーフティジャパンインストラクター競技大会」が開催された。この大会は、安全運転普及の各分野で活躍するHondaの安全運転インストラクターの指導力ならびに運転技術の向上と均質化を図る機会の提供を通じ、世界トップクラスのインストラクターづくりをすることを目的に1997年より毎年開催されており、今年で11回目。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターは、お客様の多様なニーズに対応するために、今年8月に施設および設備を大幅に改修。新しい施設での初めての大会となった。

選手は、グループA(国内各交通教育センター)、グループB(Honda各製作所、研究所、ホンダエンジニアリング、ホンダ学園)、グループC(ホンダモーターサイクルジャパン、二輪販売店、ホンダ学園)、グループD(四輪販売会社、ホンダ学園)、グループE(海外連結子会社・関連会社・ディストリビューター)に分かれて安全運転の技術を競った。

今年、国内から90名、海外はオーストラリア、中国、フィリピン、インドネシア、マ

レーシア、シンガポール、タイ、トルコの計8カ国から23名、総勢113名が参加した。

指導者としての質を高める大会

大会初日(13日)には、午後2時よりグループAの選手を対象とした「指導力審査」が行われた(右記コラム参照)。

大会2日目(14日)から、グループA～Eすべての選手による競技が行われた。午前8時30分からの開会式では、大会運営委員長である千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が挨拶。「一人ひとりが志を高く持って、自らのフィールドで技術力を磨き、仕事の質を高めていただくチャレンジを続けていただくことを期待します」と述べた。続いて、出場選手を代表し、昨年のグループA事業所部門で1位となった鈴鹿サーキット交通教育センターの出原大輔選手が、お客様や地域社会に安全運転の心と技を伝えるインストラクターとして、笑顔で爽やかに競技に臨むことを宣誓した。

競技は、午前9時20分より、二輪部門「ブレーキング」「パイロンスラローム」「コーススラローム」、四輪部門「フィギア※1&

縦列駐車・車庫入れ」「ブレーキング回避」「パイロンスラローム」が行われた。

さらに、午後5時30分より、「筆記レポート」が行われた。これは、安全運転の指導者としての幅広い知識と相手に理解していただく指導力を確認するものとして今大会より新たに取り入れられ、出場した全選手が取り組んだ。

夜には、懇親会が開かれ、選手たちが親睦を深めた。懇親会では、ビデオレターを通して、福井威夫・本田技研工業(株)社長が選手を激励した。



今大会から取り入れられた「筆記レポート」

※1 フィギア=スムーズな操作・走行かつ正確な車両誘導技術を競う種目。縦7m×横7mのボックス内に設けられた3カ所の枠内に方向転換をしながら指定された前輪または後輪を入れ、タイムを競う

安全運転普及活動の輪をさらに広げる努力を

大会3日目(15日)は、午前8時20分より、二輪部門「一本橋」、四輪部門「コーススラローム」競技が行われた。最終種目は、グループAの選手による「トライアル」。災害時における二輪車での支援活動を想定し、障害物コースに挑んだ。

午後1時30分より、表彰式および閉会式が行われた。大会会長の吉見幹雄・本田技研工業(株)専務取締役・安全運転普及本部本部長が「Hondaは、今後も世界中の仲間が地域社会とともに手を取り合って、より豊かなモビリティ社会の実現に向けて安全運転普及活動の輪をさらに広げる努力を継続していきたいと思っています。そのために

も、皆さんの一層の積極的な取り組みとリーダーシップをお願いしたい」と挨拶し、3日間の大会は幕を閉じた。



閉会式で挨拶を行う吉見幹雄・本田技研工業(株)専務取締役・安全運転普及本部本部長

指導力審査

今回のテーマ: 動画KYTの指導力

今年のテーマは、「動画KYT※2の指導力」。7つの交通教育センターのインストラクター3名1組が、それぞれ指導者・操作担当・受講者の役に分かれて、規定の15分間で動画KYTを使った指導方法を競った。

発表された事例の一部を紹介する。危険予測の振り返りに使われたのは、信号機のない交差点での走行場面。交差する道路を横切るクルマ、左折した直後の駐車車両、前車との短い車間距離などに危険を感じる場面がある。

★アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ

クルマを左側の路側帯に停車して携帯電話を使うなど身近に見られる行動だが、周囲のクルマを危険な状況にしていることに気づかせる。振り返りの中で、交差点を右左折する際は速度を落とすことで余裕が生まれること、曲がることばかりに気をとられると前車の急ブレーキなどの危険を見逃してしまうので安全確認が大切であることを全員で共有した。



★鈴鹿サーキット交通教育センター

危険場面を、運転者の視点と上空から見た状況で再現。他車の様子を確認した上で、危険を感じたら早めにブレーキを踏むこと、確認の備りは危険につながることを説明した。また、あるべき運転を動画で再現。予告ブレーキ、目視での安全確認、早めの減速など、基本に立ち返った運転をアドバイスした。さらに、良かれと思った行為が危険を招くことがあるので、いかに他者に迷惑をかけないか、迷惑予測も大切と伝えた。



★交通教育センターレインボー福岡

「ふつう目玉焼きに何をかけますか?」と受講者に問い、「ふつう」も人によって違うことを確認。同様に自分と他者では危険と思うことに違いがあると説明。どこで危険を感じたのか、受講者の意見を聞きながら振り返った。その中で、駐車車両があり停止した前車に追突したケースと、駐車車両があったが追突を免れたケースを映像で比較。事故が起きないから安全なのではなく、ヒヤリとした経験を日頃の安全運転に活かすことを伝えた。



最後に、千葉英雄審査委員長から「どのような相手に対しても、考え、気づきと納得が得られる指導方法をいろいろな訓練をしながら進化させてほしい」と講評がなされた。

※2 動画KYT=実際に起こりうる危険場面をコンピュータグラフィックスによる動画で再現。受講者は危険を感じた場面を手元のボタンを操作。どの場面でどういう危険を感じたか、危険を招かないためにはどうすればよいかなどを指導者と一緒に振り返り、危険予測能力を高めるトレーニングを行う



四輪部門「フィギア」

四輪部門「縦列駐車・車庫入れ」



四輪部門「パイロンスラローム」

四輪部門「コーススラローム」



二輪部門「ブレーキング」



二輪部門「パイロンスラローム」



二輪部門「コーススラローム」



四輪部門「ブレーキング回避」



二輪部門「一本橋」



二輪部門「トライアル」